

「豊かな心をもつ児童の育成」 —特別の教科 道徳の授業づくりを通して—

I 研究の内容

本年度は、研究主題に迫るために、昨年度の研究を踏襲した上で「考え、議論する道徳」に取り組んだ。道徳の授業において、指導方法・評価方法の改善をすることで、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を身につけた、豊かな心をもつ児童の育成が図られるという仮説の元、理論研究・授業実践を中心として校内研究に取り組んだ。

1 道徳の授業実践

各学年・ブロックで研究した道徳の授業を公開し、参観し合った。授業後には授業改善のための手立てについての意見交換の場をもった。

ブロックの中で、学年児童の課題について共有し、発達段階に応じた課題についても共通理解を図って授業を構想した。全学年で実践を行い、児童の実態に応じた工夫や手立てについても学びあった。

(1) 研究授業

第5学年道徳授業実践 題材名 森の絵

(2) 授業実践

第1学年道徳授業実践 題材名 きいろいベンチ

第2学年道徳授業実践 題材名 るっぺ どうしたの

第3学年道徳授業実践 題材名 花さき山

第4学年道徳授業実践 題材名 絵はがきと切手

第5学年特別支援学級道徳授業実践

題材名 アンパンマン・うさぎとかめ・赤ずきん

第6学年道徳授業実践 題材名 六千人の命のビザ

2 主題に関わる理論研究

5月に、小尾綾指導主事を講師に招いて、「考え・議論する道徳」をするための授業改善の具体的な視点・授業づくりの基本・指導方法の工夫・評価について具体的にお話しいただき、理解を深めることができた。

11月の研究授業後の研究会では、平成30年度甲州市「確かな学力育成プロジェクト」で講師をなさった内藤雅人先生を招いて、授業の基本構造について学び、教材研究の視点を得ることや道徳授業の楽しさを知ることができ、教職員の研究意欲の向上につなが

った。

3 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとの連携

3部会との連携を図り、Q-U検査の実施（年2回）と分析・活用，家庭学習の推進，「家庭教育・子育てQ&A」の活用等の取組を全職員の共通理解のもと行った。

II 成果と課題

1 成果

- ・昨年度の研究がベースにあり、「考え，議論する道徳」を意識した指導方法を学び合うことで，学校として職員全員が理解し道徳の授業改善につながった。また，全学級の授業を学び合ったことで，発達段階における課題やその先の見通しについても考えることができた。
- ・年二回道徳意識調査を行い，仮説の検証につなげることを試みた。児童の実態を把握し手立てを打つことができた。
- ・主体的・対話的で深い学びというねらいを達成するために，教材文の扱い方・「道徳読み」の手法に軽重をつけること等，時間配分の留意点を明らかにすることができた。また，教材の捉え方や，発問・問い返し・核心に迫るための児童の発言の取り上げ方等の指導方法を学ぶことができた。
- ・授業後の共有化の時間の確保は，授業者・参観者共に道徳の授業づくり，授業改善につながる学習の場となった。教材提示，発問，授業展開，言語活動，ふり返り等の具体的な手立てを，実践で検証するなかで，主体的・対話的で深い道徳の授業づくりを学ぶことができた。
- ・校内のチャレンジ課題である九九やことわざ，俳句等が定着し，児童が基礎基本の力を身に着けるための環境があり，全校体制で取り組むことができた。

2 課題

- ・適切な研究仮説を立て，研究仮説に対する適切な評価をすること。
- ・道徳意識調査の数値の低い項目の向上のための取り組みをすること。
- ・対話的で深い学びが可能な学習集団づくりのために，地道な継続指導をしていくこと。
- ・児童の主体的な学びが実現できるように，学ぶことの楽しさや学ぶことの意義を，全ての児童が感じられるように継続指導をしていくこと。

III 成果物

- ・研究授業，授業実践の指導案，実践記録，ワークシート，資料等
- ・祝小家庭学習の手引き ・道徳意識調査

（研究主任 小林 淳子）